

令和3年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

「地域探究プログラム オリエンテーション合宿」(R3.8.4(水)～8.6(金))

令和3年度国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

2021 8/4(水)-6(金)

◆ 4 質の高い教育をみんなに

全国高校生体験活動顕彰制度 地域探究プログラム

オリエンテーション合宿 in 若狭

＼若狭の今を探しにいこう!フィールドワーク先は3カ所/

(株)マツ勘
 箸の製造にかかわる人・モノに事業モデルの構築の開発。職人の後継者問題や将来の担い手となる子供たちへの地域産業の認知、興味関心を開発、展開中。
 Instagram hashi_kura

阿納体験民宿組合
 観光客が減少している中、地域活性化のために、修学旅行先の誘致や食育体験などのプログラムの開発。住民が主体となって活動中。
 YouTube ブルーパーク阿納

田島水産(株)
 近年、鯖の水揚げが減少している。小浜の鯖を復活させようと、小浜市内の産学官が一体となり、鯖の養殖を展開。「小浜よっばらいサバ」して販路開拓中。
 YouTube 田島水産

◆ 目的

- ・ 探究の過程において課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。
- ・ 2泊3日で「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを学ぶ。
- ・ 職員は、高校生が「探究」を学び新たな社会の担い手として自身の可能性を伸ばすことを支援する。
- ・ 自己の在り方や生き方を考えながら学ぶことができるよう、自然の家の特色をいかしたプログラムを提供する。

◆ 参加実績

高校1年生～3年生(6名)
 1年生 3名(男3名 女0名)
 3年生 3名(男1名 女2名)



対象:高校1～3年生 18名
参加費:5,000円
 (食費7食分 4,340円・傷害保険料 253円・シーツ代 300円・雑費 107円)

←申込フォームはこちら (7/21 17:00)
<https://www.niye.go.jp/entry/app/event/apply/3851>

QRコード

主催:国立若狭湾青少年自然の家
 協力:(株)マツ勘、阿納体験民宿組合、田島水産(株)

<お問い合わせ先>
 国立若狭湾青少年自然の家(担当:伊藤・小川)
 〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
 TEL 0770-54-3100 wakasawan-sen@niye.go.jp

◆ 日程

8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)
ガイダンス	講義・演習②「課題解決の基礎」	講義・演習④「行動計画の基礎」
地域づくりの実践	FW②「地域の課題の研究」	発表②
FW①「地域の魅力を発見」	講義・演習③「地域課題の探究」	実践活動のためのガイダンス
講義・演習①「地域理解」	発表①	

◆成果

- ・
- ・ 参加者に、最初のガイダンスでこの合宿の最終目標を示すことで主体的に取り組む姿勢が見られた。また、発表スタイルも「体験した内容」「魅力を感じた点」「課題を感じた点」「自分の考え」と構想を分けて考えさせるで、まとまりのある内容を発表につながった。
- ・ 企業にインタビューをすることで、企業の人の思いや熱意を肌で感じる事ができた。インターネットや本で調べることに加えて、地域の実践者に話を聞く体験は、高校生たちによりよいエネルギーを与えることが判った。



◆参加者の声

- ・ 体験することで、現場の実際の課題を探究するのは、すごく貴重な体験でした。探究の難しさを知れたし、課題に対する策も考えると次の課題になるという探究のサイクルを学びました。
- ・ 考察する時は、一人一人に合わせた具体的なアドバイスを丁寧にしてもらえたので助かりました。
- ・ 探究オリエンテーション合宿では、今まで自分にはなかったことを学ぶことができ、探究において、サポートが充実していたので、課題に対して解決策を立てることができた。
- ・ 探究オリエンテーション合宿では、より詳しく多くのことを知って調べることができたと思う。
- ・ 探究の仕方、発表の仕方など細かい指導で、理解を深めることができた。普段できない体験をさせてもらって、大学受験においても、これからの人生においても大切なことを学ばせてもらいました。



◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・ 若狭地域にある企業の実践者から、話を聞くことで参加者が意欲をもって取り組めた。
- ・ ファシリテーターが、講義・演習をどのような主旨で進めるのか、共通認識を持つことで、各ファシリテーターが参加者にどのように声かけや道筋を立てなければならないのかを丁寧に話し合っ進めることができた。
- ・ 仮説を立てる際は、「～のためには」といった目標になっている参加者がいた。そのため、ファシリテーターが仮説を立てる思考を教えながら、活動を進めた。右の写真のように「youtuberを通して宣伝してもらおう」とよっばらい鯖の事を多くの人が知ってもらえるだろうと仮説を立てることができた。
- ・ 参加者が、フィールドワーク先を事前に調べる活動を取り入れておくと、どんなどころに行くのか、準備物は何かがあるかなど考える機会を与えられたと感じた。
- ・ 参加者が高校生ということもあり、特に電車に来る子には、前日に集合の場所や時間、事前に連絡を取る必要がある。
- ・ 若狭地域を探究するのは、他の地域の参加者にとっては、イメージが付きにくいものだと感じた。そのため、フィールドワーク先のPR動画を作って、イメージを持たせた方がよいと感じた。

